

第3回 中心市街地市民意見聴取会

日時：平成21年12月5日（土） 午後1時30分から午後4時30分

場所：松阪市産業振興センター3F（松阪市本町2176番地）

アドバイザー：芹澤高斉氏（三重中京大学准教授）

岩田俊二氏（三重短期大学教授）

中谷 泰氏（中心市街地商業活性化アドバイザー）

浅野 聡氏（三重大学准教授）・・・欠席

松阪市：山中市長、稲垣建設部長、村田商工観光部長、中山まちづくり統括担当参事、
牧戸文化担当参事、長野中心市街地活性化室長

松阪商工会議所：高畑専務理事

参加者：100名

1. 開 会

- 「第3回中心市街地市民意見聴取会のプログラムについて」：都市計画課 前出主査
・意見聴取会のプログラムと趣旨について説明しました。

2. 第2回中心市街地市民意見聴取会の報告

- 「意見聴取会の概要報告」：都市計画課 大島主査
・パワーポイントを用いて意見聴取会の概要について報告しました。
（別紙資料参照）

3. 中心市街地活性化市民アンケート調査結果の発表

- 「市民アンケート調査結果報告」：都市計画課 前出主査
・パワーポイントと配布資料を用いてアンケート調査結果の概要を説明しました。
（別紙資料参照）

4. 中心市街地の整備イメージ（案）について

- 「整備イメージ（案）の骨子説明」：山中市長
改めましてこんにちは。本日は本当に雨が降っている中、このような大勢の皆様方に参加して頂きましたこと、まずは感謝申し上げます。そして、1回、2回と繰り返す中で、今回、第3回目を迎えました。これまで皆様方やアドバイザーの方からも、様々な意見を頂きました。皆様と共に、「松阪まちなか再生プラン」という形で、あくまで（案）という形でございますが、かなり協議を重ねながら作って参りました。あくまで（案）でございますので、これまでの様々なご意見に対して、私達もかなり具体的な提案をこれからさせていただきますが、様々なご批判、ご意見を受けながら、これまで2回のテーマも、2回議論し

たことも踏まえた上で、今回、より活発な意見を聞かせて頂けたらと思います。そして、3回目に関しましてはできるだけ、今日来て頂いている部長さんだけでなく、商工会議所の皆様方、そしてアドバイザーの方々からも、なるべく一問一答で、なるべくこちらからも多くの話もしていきたいと思っておりますし、直接いろんな立場の意見を聞いて頂けたらと思っております。

今回の整備イメージの骨子としては、松阪のテーマとして、「食」を感じよう、「歴史」を温めよう、そして、「人の心」をつなげようという事をテーマに掲げてやってきました。前回、「食」、「歴史」というものについて、話を少しさせて頂きましたが、後は、「それをつなぐ人の心」という事に関して、まちの中での交流点、交流拠点というところも意識していかなければいけないと考えております。「食」と「歴史」を温めるまち、という部分でございますが、一応、主題としては四点に分けさせて頂きました。

まず、一つ目は「歴史」という部分でございます。氏郷そして豪商のまちを語り継ぐという部分におきまして、「歴史の物語を温めるまちづくり」という点でございます。これにつきましては、松阪城跡を国の指定史跡という形で目指している部分がございますが、そこをあくまで一体的とする中で、歴史、文化、そして商業の元々中心となってきた豪商という歴史を伝えていく中で、これは、行政だけが取り組むのではなくて、皆様と一緒に取り組むというイメージの中核としていきたいと思っております。

二つ目といたしましては、商業の活性化でございます。これは、蒲生氏郷が開いた「楽市楽座」、これを21世紀の松阪の「楽市楽座」という形で、改めて賑わい活力のある商店街を目指していきたいと思っております。これは、単に空き店舗対策をビジョンなく、皆様にお願いますというだけではなくて、南三重の各地域に対してもしっかりとアンテナをこちらから出させて頂くことにより、南三重の中核となるような地域特産の販売や観光案内を担うアンテナショップを設ける様な、こういう取り組みを行政と商店街の皆様方、商工会の皆様方と連携を取りながら、お客様が欲しいという品物をしっかりと取り揃えるとともに、南三重の中でも、そして三重県の中でも、やはり、松阪は「商売のまちやったなあ」と言われるような、そういうまちづくりをしていきたいと考えております。

三つ目といたしましては、日本一のグルメタウンという部分を「食」という部分で考えていきたいと思っております。これまでも様々なPRがございましたが、ご当地グルメのポスターやマップを改めてインパクトのあるものに作っていったり、後は、食べ歩きマップ、または、B1グランプリという部分もB級グルメを様々な形で推進していくという事も含めて、当然、これまでの松阪牛という歴史と文化の中で作られてきた伝統芸術的な松阪牛というものを改めて、ブランドイメージというものをつくっていったらよいと思っております。

そして、最後に四つ目になりますけれども、「集い・ふれ合い松阪駅」という中で、まちの皆様方からの要望が非常に多くありました駅前広場のリニューアル、これは、ユニバーサルデザインに対応した形にして、または、今の観光案内所に対する誘導的な機能がなか

なかありませんのでその辺りを配慮した松阪駅前づくり、そして、降りてきた方に「あっ、松阪駅だな」と出入がしっかりとつくような、そういうイメージづくりが大事であると思っております。

そして、これもあくまで提案ではございますけれども、今、駅西地区市街地再開発事業、これにおける都市計画決定が出ておりますけれども、私は都市計画決定を外させていただく中で、あくまで公がどこに対して、皆様方と地権者の方々と今後は協議する中で、地権者と公だけが、今後、あそこに10億、20億、30億とかけて何かをしていくよりは、一度、民間の地権者の皆様方にそこに対しての目的部分で駅前をしっかりと考えて頂く中で、もし、公が都市計画決定の中で、10億、20億、30億とかけるような費用があるならば、本当の意味でのまちづくり、ソフト面、ユニバーサルデザイン、または、歩きやすいまちづくり、皆様から提案された案内板、そういう様々なハード面での整備に対して、具体的なまちづくりの整備に関して行っていくことが大切ではないかなと私自身は考えております。

今後のまちづくりにおいては、箱物を作って、駅前に箱物が出来ればいいと言う話ではなく、本当に皆様方と共に、松阪のまずはソフト面でのイメージ、もう本当に「食」と「歴史」って安易なテーマだと思うかもしれませんが、何かやはり松阪市としてビジョンがないと、そこに向かって商店街の皆さんも市民の皆さんも商工会議所の皆さんもなかなか向かって行きにくいと思っております。一つのイメージを変えて、松阪市として提案させて頂くことで、市民全体が、そして、行政が同じ方向に向かって一つ一つの取り組みを進めていく、そして、その中で一度、駅西地区再開発という再開発事業に関しては、一度、全く完全な白紙に戻させて頂く中で、そこ以外の部分に対してお金を投入していくというあり方を松阪市では考えていきたいと思っております。

この後、担当から、整備イメージ(案)について説明がありますが、この(案)に関して、今日は皆様方から多様なご意見を頂きたいと思っております。そして、今日、ご意見を頂いたことを踏まえて、今年度中に改めて、ビジョンをつくらせて頂きたいと思っております。是非、次年度においては、改めてつくらせて頂いたビジョンをもとに、まちづくりのシンポジウムやフォーラムなどを開催させて頂く中で、これからのまちづくりの基本は、本当に、そこに住んでいる皆様方と共に作っていく。そして、次の世代へ伝えていく。そんなまちづくりをしたいと思っております。今日は様々な議論を期待しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

「整備イメージ(案)の詳細説明」：中山参事

「松阪まちなか再生プラン」

【サブタイトル】：「食」を感じよう！「歴史」を温めよう！そして、「人の心」をつなげよう！！ ~ Feel food Heat history and Link love ~

・これまでの中心市街地活性化への取り組みや市民アンケート調査、市民意見聴取会などの内容をもとに作成した「まちなか再生プラン」の内容をパワーポイントを用いて説明

しました。(別紙資料参照)

中心市街地の再生に向けた考え方

テーマ 「食」を感じ「歴史」を温める街へ

- ・魅力ある松阪を市民全体で創っていくために、松阪が誇る「食」と「歴史」を活かした、まちなみ整備・情報発信を行い、『松阪の顔』となる中心市街地をつくる。

整備イメージ

- ・「松阪駅」「商店街」「魚町・本町界限」「松阪城跡・御城番屋敷」をネットワークするまちづくりを展開する。
- ・中心商店街の活性化を図り、暮らしても、訪れても、楽しく感じる街とする。
- ・松阪が誇る“食”と“歴史”を、全国に「差別化」してアピールを行う。
- ・松阪駅を中心とした“松阪の顔”をつくる。

中心市街地の再生に向けた4つの取り組みについて

取り組み 《歴史》“氏郷”と“豪商”のまちを語り継ぐ

～歴史の物語を温めるまちづくり～

【主な取り組み】

- (1) 国の指定史跡を目指す「松阪城跡」を中核とした「物語」を発信できるまちづくりをする。
- (2) 蒲生氏郷の「大河ドラマ」化に向けて、官民一体となる地域ぐるみの取り組みをする。
- (3) 「御城番屋敷」「原田二郎旧宅」の改修を行い、松阪の歴史文化を継承するとともに、観光戦略と常に連携を行う。
- (4) 「松阪城跡・御城番屋敷」「本居宣長記念館」「松阪木綿手織りセンター」「松阪商人の館」など、松阪の歴史を歩いて感じられるまちづくりを行う。
- (5) 散策ルートには、歴史や松阪らしさを感じさせる統一サインを設け、イメージアップを図る。
- (6) 松阪が誇る魅力的なまちを保全するために、景観ルールづくりを目指し、併せて、修景整備等を行う。
- (7) 観光客向けの駐車場の整備を検討するとともに、案内の充実を図る。
- (8) 伊勢志摩へ向かう道中の「立ち寄り観光」を推進する。

取り組み 《商業》来て・見て・買って 21世紀の「楽市楽座」

～賑わい活力のある元気な商店街づくり～

【主な取り組み】

- (1) 空き店舗対策を行い、商店街機能の集積を図る。アンテナショップなどにより、松阪、南三重の地域物産等の販売をする。
- (2) 松阪商人らしく、消費者ニーズに対応した販売促進を行い、人を呼ぶ個店の強化を図る。
- (3) 定期的に朝市(まちなか楽市)やワゴン屋台、フリーマーケットなどを開催する。
- (4) まち歩きのリゾートや情報収集の場となる「おもてなし処」を充実する。

(5)松阪の「食」を楽しんでもらうための環境、情報、商品などを充実し、メディアなども活用したPRをしっかりと行う。

取り組み 《食》 日本一のグルメタウンを感じよう

～松阪グルメを感じさせる食の魅力づくり～

【主な取り組み】

- (1)「ご当地グルメ」のポスターやマップを作り、まちの魅力、情報を売り込む。
- (2)松阪の「食」を利用して、民間と行政が連携する中で、オリジナリティあふれる商品を開発し、販売につなげていく。
- (3)食べ歩きを推進するために、「食べ歩きマップ」などを作成し、サービスを向上する。
- (4)さまざまな食材をB級グルメとして、食べる工夫を振興するとともに、「B1グランプリ」への出場を目指す。

取り組み 《駅》 集い・ふれ合い“松阪駅”

～松阪駅周辺のリニューアル～

【主な取り組み】

- (1)JR松阪駅前の玄関口である「駅前広場のリニューアル」を図り、ユニバーサルデザインに配慮した整備を行う。
- (2)松阪駅西地区市街地再開発事業の都市計画決定を外し、民間開発による土地利用を図り、市有地の活用については再検討する。
- (3)鎌田踏切のアンダーパス化を行い、中心市街地へのアクセスの向上を図る。(松阪公園大口線街路整備事業)

5. 意見聴取

[座長]: 芹澤高斉氏(三重中京大学准教授)

(主な内容)【整備イメージ(案)について】

司会者 ここからの進行を三重中京大学准教授: 芹澤座長にお願いします。

座長 皆さんこんにちは。今日は3回目ということで、市のほうからも比較的具体的な整備イメージを提案されたということで、実質的な議論ができると思っております。一方で、熱い思いの中で語りかけたい方もいらっしゃると思っておりますけれども、これだけ大勢の方の中で、なるべく多くの方のご意見をお聞きしたいと思っておりますので、出来るだけ簡潔にご発言いただければ幸いです。それでは、まず、アドバイザーの先生方の自己紹介と挨拶をお願いします。

岩田先生 どこでも同じような問題で全体的に地方が衰退しているというか、力が無くなってきているというのは、政治の問題も大きいと思います。今日はいろいろな意見が出ることを期待しています。

中谷先生 今後、日本の人口が減っていく、経済が縮小していく、こういった中でどうやってまちづくりをしていくかということが私のテーマです。今日は、皆さんと

意見の交換ができればよいと思っております。

座長 それでは、意見聴取に移りたいと思います。今日は、これまでの1回、2回と意見聴取会で頂いたご意見と市民アンケート調査結果をもとに、松阪の中心市街地の方向性を示す「まちなか再生プラン(案)」が市の方から示されたわけですが、それについて、何かご質問、ご意見がありましたら、どなたかお願いします。

参加者 このレポートを拝見させていただいて、大変、結構なプランだと感じますが、2、3質問という意見を述べさせて頂きたいと思います。まず、取り組み と と についてですが、いわゆる「来て・見て・買って」という部分と、「食」の文化の問題ですけれども、ここに、誰がやるのかという人の問題。それからもう一つは、予ねてから言っている、交通アクセスの問題。特に、車で来て買い物や食事をするのか、それとも市内には車をあまり入れないで、歩いて廻れるような整備をするのか。それから、これはお金がかかる問題ですので、つまり、個人が起業していくためにはお金が要ります。したがって、これは市民全体の問題なので、例えば、そのお金の問題を公的な費用で出すのではなくて、例えば、市民ファンド等を設けて、それに乗じてみんなが協力をしていくとか。あるいは、利益が上がれば配当を貰えるような仕組みで、誰もがWIN、WINというような関係が作れないと、こういうことが決められないのではないかと思います。それからもう一つは、松阪駅西地区市街地再開発事業の問題が絡んでいるわけですが、これを都市計画決定から外すということになると、現在の市の所有地をどうするのか、という議論と残された個人でお持ちの土地が、乱開発されないだろうかというような事について。市民にとって、より望ましいような形をお願いできるような、そういう仕組みが何か考えられないだろうかと。それは市民の知恵で考えていかなければならないと思いますので、それもまたそれで、一つの大きなテーマだろうと思います。ということで、ここはどうやるのかは私もまだよくわかりません。それから、真ん中の、いわゆる現在の駅前広場、またその付近の所有権はどこにあるのか、つまり土地は誰のものなのか。今の様子では、タクシー会社の物なのかというふうに思うのですが。所有権がもし、市サイドにあるのであれば、もう少し市民全体にとって駅前広場は、有効で且つ効率的な使い方を考えないといけないのではないかと思います。

座長 大きくは2点。質問とご意見の両方があったかと思われま。これより、市長からお答えいただける点については、お答えいただければよろしいでしょうか。その前にまず、市のほうから提示された整備イメージ6ページの施策という部分の と について。多少、他の部分にも絡んでくるかと思いますが、誰がやるのかと。これまで、議論になった交通アクセスの問題をどう考えているのか。お金についての質問と、あとは提案としてファンドみたいなものを設けてはど

うかと。2番目については駅西地区の問題として、都市計画決定の白紙に関して、市が持っている土地については有効利用を図ること、それと、特に民間で持たれている土地については、それを外すことにより、乱開発の可能性があるかと懸念されているということと、駅前広場のあり方についてです。お答えいただける範囲で市の方でも結構ですので、お願いできますでしょうか。

稲垣部長 駅前広場の整備についてお答えします。土地については、市とJR及び三重交通が所有しております。整備について3点の大きな目標を持っています。ユニバーサルデザインとかモニュメントをどうするか、シェルター（アンケート）をどうするか。その部分については、皆さんの意見を聞いてやっていきたいと考えています。その基になるのが、「歩いて感じられるまちづくり」の取り組みの一環として、松阪城跡、木綿手織りセンター、御城番屋敷といったネットワークを形成するための出発点として、駅に来ていただいた方が、自然とまちの中に入って行くというような整備を考えていきたい。

村田部長 駅西地区の部分で、駅前の開発ということで当時の国鉄から精算団体として買い上げた土地（市有地）があります。国鉄が当時駐車場としていた関係から、現在、市の管理の中で駐車場として9,000㎡利用させていただいております。

市長 先ほど、市民ファンド等の配当を受けるようなものを作ったらどうかとご提案をいただきました。ご存じの通り、駅西地区に関しては、現在、基金を積み立てており、だいたい11億くらいの基金がある中で、まずはこの活用ということ、今後は駅西地区を外していくと、こういった形でその11億円を使っていこうかという部分もございます。基金の活用という部分では、まちづくりに活用しても良いのかなと思っております。あと、乱開発についてですが、もし民間に委ねてしまったら、乱開発はどうなるのかというご意見もありました。もちろん、松阪市の中でも様々な意見があった中で、当然、松阪市として、都市計画決定を私有地にかけているということは、明確な目的がない限り、私は適切ではないと、現在考えております。当然、各土地の所有者の方々と地域の方々が同じ目的を持って、おそらくこれだけの10億、20億、30億の事業を組むということであるならば、それも一つの選択肢だと思っております。現在、先ほど中谷先生からのお話もございましたが、経済が縮小している中で、駅前だけにホテルやマンションが建つような、または箱物が建つような、または、公がお金を投資して都市計画決定に向けて近づけていくというような、国からのコンパクトシティの中での、中核都市へのあり方というものが必ずしも望ましいと思っておらず、その公費というものは、他のまちづくりに対して投じていくソフト面、ハード面における投資というふうに考えております。もし、これはあくまでも提案だけなのですが、今日、土地の所有者の方もご参加いただいておりますけれども、もしご意見があれば一言聞かせていただいてもよろしいでしょう

か。

参加者 私は、駅前開発の地権者の一人です。このように開発計画が中止となっているということで、今後、土地をどう使っていくかということは、まだ白紙の状態です。現実、ここの土地の地権者は、4者しかありません。その中で、皆さんの同意があって、今後進めていけるようなものがあるならば、当然、そういった開発も良いかと思っているのですが、実際、私たちみたいな中小企業は、非常に今回の開発中止によって、大打撃を受けていることは事実で、死活問題でもありますので、この乱開発というのは、何を建てたら乱開発というのかわからないのですが、ラブホテルを建てるというようなことは到底しません。意見は出したのですが、長屋のようなものをここに建てて、松阪の地産地消のものを入れて相乗効果が得られるように、松阪のまちを探索できるようなものを作ったらどうかということアンケートに書いたのですが、これは挙げられてないとか、ボツに回ったのかなと思っています。土地はあくまで個人の物なので、国に制限されるのは、個人財産の侵害になるのではないかと思います。企業としておかしなものを建てるつもりはないです。売れるものなら売りたいと思っていますし、その売り先が何を建てるかは私もわからないので、土地についても銀行の担保も入っていることですし、おかしなものは建てるつもりはないのでご安心下さい。

市長 貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本当に、企業の社会的責任という部分で、駅前再開のビジョンというものが見えない中で、当然、地権者の方々に、まずは一度考えてみてもらおうではないかという部分は、当然必要だと思っています。ただ、それも、当然駅前ということに関しての思いというのも市民の皆様方がある中で、民間事業者であろうとも、公であろうとも、ある意味公的な機能を持っているわけですし、当然駅前の様々な所有者の方々のおっしゃっていただいたような、様々な市民に対する思いという部分もあるわけですので、そういう理解を察していただきながら一緒になって、駅前に関して、または、松阪市に関して考えていければと思っています。

参加者 私が申し上げている乱開発というのは、例えば、パチンコ屋さん等ができるのは困ると個人的には思います。それから、土地の活用は所有者の私的所有権の行使であるので、個人がどう使おうが基本的に認められており、それを行使するなどは誰も言うことはできないと思います。ただ、この図を見ると少なくとも北側は細長く市の所有地になっているわけです。そうすると、JRの南側に高層構造物が建った時に、北側の土地は何に使うのか、具体的に考えると、この土地の有効利用は、もうちょっとまとめてやらない限りは、ちょっと無理ではないかと。だから、前に組合方式でやろうという案がずっと長く行われてきたわけで、それを都市計画決定を外すということになれば、また一からやり直

すことになるわけで、その仕組みをきちんとしておかないと地権者の方にも迷惑だろうし、市民にとっても何がどういふふう整備されるのかわからないということになってしまって、その計画の概要が全体として浮かんでこない、市民としては何の議論もできないということを懸念しているわけです。

座長 今、駅西地区の話がありましたが、少しここに絞って話しを進めたいと思います。何かアドバイスはありますか。

岩田先生 再開発事業の都市計画決定を外すということですが、それを外したらどうなるか。そうしますと、事業が進捗しないという思いがあります。それをどうするかということで、制度として、あと地区計画というものがあります。それは事業ではなくて、計画だけを作って都市計画決定をして担保するという方法があります。あと協定というのもありまして、技術協定、建築協定、建築基準法に則った協定。それは地権者全員で結ぶ。いずれにしても、何をやるにもみんなの合意が必要です。

参加者 取り組み の 2 番目を話題に出そうと思います。ここの 2 行の文章ですがちょっと乱暴すぎるなと感じます。というのは、まず都市計画決定を外すとどうなるか、先ほど、先生が言われたように、地区計画とか建築協定など提案しようかと思っていました。それはそうとしましても、民間開発による土地利用を図るということですが、今のこの民間開発地区が隣接している所が松阪の顔になっているところ。ということは、片方はこっちを向いて、もう片方はこっちを向いているような形では、絶対何年経ってもできないと思います。それと民間開発により土地利用を図るということは、乱開発と言われました。私は乱開発どころか、いつまでたってもあっち向いたりこっち向いたりしている状態だと、もっと地盤沈下してしまうのではないかとことを一番気にしている。だから乱暴な言い方もわかりませんが、先ほど講師の方も言われましたが、都市計画決定は外さなければいけないと思います。しかし、松阪の方は都市計画のランドデザインがあるわけですね。そして、松阪の駅前の顔というのもデザインをするべきだと思います。そういうものにおいて、民間開発による土地利用については、ある程度、行政も入り込む部分も何かある。こういった部分で地区計画とかそういった手法もできるんですよ。そういうことも考える必要があるということと、私有地の活用については再検討するという部分について、その部分と隣接した一角を土地にしたそこに、整合性を持たせて欲しいというのが私の意見です。

市長 誤解があるといけないのですが、もうこれは、私自身、明確な指針であって、これに対して批判のご意見を是非受けたと思うのですが、これについては、今後、ブレとかは全く無いものであり、一つははっきりと言っていいのが、松阪市の市有地を除く駅西地区に関してはある意味、松阪としての顔としての役割

を公としては、一切期待していないということを明確にして話をさせて頂いています。それに、もし何十億というお金をかけることがあるのであれば、顔というのは極端に言えば、第三銀行さんに乱開発をするのかと聞くことはないし、他に整備をお願いしたりするという様なこともありえません。そこに対して商店街に対して誘導を図ったりとか、松阪市の駅周辺に対してよりソフト面での、もし仮に何十億というお金をつぎ込むのであるならば、ソフト面での整備やいろいろな施策にお金を使うなど、いろいろなアイデアのまちづくりがあると思います。それらがある意味、新しいまちの顔になるのではないかと考えています。駅西地区だけに何かを建てれば、または何かを建てなければ顔になるというまちではない中で、今の松阪の市有地に関しては、まちづくり公社さんにお世話になることで、今、駐車場として活用されています。多くの方から駅周辺に駐車場がまだまだ足りないと言われていた中で、今現在、駐車場として活用している部分は、まだ今は有効活用していける部分ではないかと思っています。ただ、民有地の部分に関しては、ここに公と一緒に大きき地域を今後開発する、または、何かを期待するというよりは、あくまで民間に任せて、公としての責任は、他の部分に対して投資していく中で、松阪の顔づくりをしようと考えています。

座長 駅前の土地は公共性をもった土地であるという認識で何かご意見ありますか。
参加者 松阪駅西の市有地には、防災機能を有する土地利用を考えるべきであると思います。それは、緑地であり、災害時の備蓄場所、みんなの憩いの場であり、飯南・飯高などの産地直売所など公共性を持たせた土地利用を考えるべきであると思います。

座長 ある程度、市民全体の方を考えた上で、公共性を持った土地としての利用というのを将来的に考えていくというご意見でした。

市長 あくまで参考資料としてですが、ちなみに先ほどの民地すべて売却させていただく、購入です。

今、話合っていたのが、松阪市が持っている土地、まちづくり公社に貸している土地の費用が16億ぐらいだろうという話をしていたのですが（購入費用として）、さきほど、今の民地に対しても、ある程度そういう費用、土地を購入したり建物を壊す費用であったり、補償費用だったり、もし仮にあそこを買い取るとしたら、同様の額がかかってくるという話をしていました。そういう話の中で、こういうお金を、もし、都市の緑地という、ある意味何もしないというのも選択肢だと思うのですが、ただ十何億という話ではないとしても、1億、2億でも、もし緑を増やそうと思ったら、1千万、2千万でも松阪市の各地に緑は増やせますよね。その辺の兼ね合いを考慮していく必要があるのかと思います。やはり費用対効果というよりは、松阪駅前に本当に買おうという、そこまでの

何十億と、今の時代において買うということが、適切かどうかという判断もまた必要かなということを一応付け加えます。

座長 今のところ、都市計画決定を白紙にということに関しては反対意見は聞かれないということで、ただ一方で、その土地利用について公共性を持っているということで計画を進めるといことは、難しいと思いますが、その辺が将来的にうまくいくような仕組みなり、意見交換の場とか、地権者と事業者と一緒にテーブルに顔を合わせて将来を話し合うとか、そういったことが望まれているのではないかと私の方は考えているのですが。一方、都市計画決定を外すことに関して反対の方はいらっしゃいますか？ 反対者無し

一応、この聴取会としては都市計画決定を外す事に関しては皆さん賛成ということで。ただし、一見、公共性を持っているので、ここを考えていただきたいという意見といたします。

参加者 いつもこの長細い松阪市の土地を見て、一体何でここにこんな土地があるのかと。12年位前に東京から帰って来て見た時にそういう話をしたら、これは以前、昔あった再開発のためにJRから市が買ったのであろう。それがあまりに広大な土地を開発しようとして、コンサルもパンクしたりして、そのまま残ってしまって、今駐車場にしか使えないだろうという話を聞いた。今、こうやって見るとあの幅では中途半端で細い。その土地の前を、地権者のメンバーが所有する土地で囲めば、一等地になるし、間口も奥行きも広くなり資産価値も上がる。その中で今、将来、先ほど言われた避難地や緑地が欲しいというのものもあるし、せっかく買った土地なのに、一生駐車場のままというのはおかしな話だと思う。未来を考える40代として、このままでは心配である。うちは買っていただけならいつでも売りますし、松阪市に持っていただいて、それを持った状態で将来、何をここに持って来ればよいか、何をすればよいかということ、市民の皆様を含めて何を建てたら一番似合うのかということ、2年間かけて議論をしてももらってもそれはそれで良いと思う。是非、買って頂きたい。

座長 駅西地区の話については、これでよろしいでしょうか。

参加者 実は、思いもよらぬ反応で、私は大変嬉しく思っておりますが、買うべきだと思います。そして、開発したら良いと思います。選択肢の一つとして考えて頂ければ、私は市民として嬉しく思う。

参加者 このメンバーの中では、市長さんは比較的若い。年齢は関係ないのですが、次の世代のことを考えたら、私は三交百貨店の土地も空いている、民間のことは民間に任せるべきだと思います。もう公費を使っている場合ではないと思います。はっきり言って、松阪市も（私、松阪市の中はわかりませんが）お金がないと思います。民間の土地に公費を入れて、孫の代まで借金を背負わずようなことはやめて頂きたい。採算が合うものは民間が投資するので、民間に任せ

るべきである。

座長 民間の土地に公費を投入することは反対というご意見ですね。それでは、市の取り組みについて、誰が実施するのか、交通アクセスに関する質問、お金も問題などがありました。これに対する説明はありませんか。また、市民の皆様からも何か取り組みについて提案はありませんか。

村田部長 アクセスは1回目、2回目といろいろみなさんからご意見を頂いておりました、非常に街中・駅前の交通が不便であるという結果が出ています。市長が先ほど申されたようにコンパクトシティというふうなことから、低炭素社会ということで、それを含めて公共交通ということで、コミュニティバスというものを推し進めている状況です。それと、8ページに書いてある部分について教育委員会の方と協議したところです。「まち歩き」のため、散策ルートの設定や観光案内の充実を考えているところです。

座長 何か他にご意見ある方はいらっしゃいますか。

参加者 取り組みの2についてですが、観光客の方にたえず聞かれる事は、蒲生氏郷さんはどういう方ですか。松阪にとってどんな方ですか。確かに松阪をつくってきた方ですが、松阪にいたのは2年です。確かに城の基礎は作ってくれたけど、松阪の今のまちをつくってくれたのは、服部さんであり、古田さんであり、紀州藩です。戦国武将に焦点を当てるのは結構ですが、これをもっと強調して頂きたい。本当のことを言ったら紀州藩が松阪の基礎を作ったと言い換えてもよいぐらいだと思います。その点、お考えを聞かせて頂きたい。

市長 蒲生氏郷は4年です。ご意見の通り、さまざまな人物も偉大であると思います。蒲生氏郷を大河ドラマにとしたのは、松阪城跡を作った象徴的な人物の一人として氏郷にスポットを当てるということです。

参加者 B級グルメでホルモンということが提案されていますが、ホルモンという言葉、この言葉のイメージを考えてはどうか。例えば、イノシシの肉ならポタン肉とか、ああいうふうに。焼肉屋さん聞きましら、ホルモン、あれは、「ほおるもん」を食べてみたら美味しかったので、ホルモンという説もあるわけです。イメージ的に、考えていかれた方が良くと思う。また、名前を考えて下さい。

村田部長 今、非常にホルモンプームということで、都会では、特に女性がホルモンを、コラーゲンですか。そういったものを好んで食べられている。ホルモン又というような表現で呼ばれているということで、これも一つ、全国的にも定着しているイメージができたのかなと私は思っているところです。

座長 以前、書いていただいたアンケートのほうでは、ホルモンという表現はあまり好ましくないのではないかなという意見もありましたが、他に何かご意見はありますか。

参加者 先ほどのホルモンの話なのですが、あれは、普通、焼肉というじゃないですか。

焼肉を食べに行くとか言いますよね。今、ホルモンという名前、聞いたことがないのですが、それは後で言います。観光のことにつきまして、もう少しやりやすい方法があるのではないかと。やりやすいのか、やりにくいのかは分かりませんが、例えば、本居宣長の旧宅を魚町の以前のところに戻せないかと。まわりのいろいろな方に聞きますと、明治天皇がこちらに来られた時に、本居宣長の旧宅はどうなっているのかと心配され、400円の寄付を頂いた。そういうことから、基金をつかって、役場で協議してその管理に用いたと聞いています。それにつきまして、今の時代になりますと、全然人が入っていないのですね。見学しているような気配もあまりありませんし、中は荒れ放題なので、あれが元の所に来ると、観光ルートとしては最高の所ではないかというふうに思っています。まちづくりというのは、やはり賑わいづくりですよ。そういう観光施設があって、食べる美味しいものがある、どちらかという、子供さんから年配層の方まで楽しんでもらえるような、まちづくりを目指すべきだと。今ある施設を整備してもらって、まち歩きができるように、それで、歩いた後、美味しい牛肉を食べていただけるようなお店が、駅前に焼肉屋とかホルモン焼きがあればいいのではないかなと思います。幅広くこつこつと開発していくと良いと思います。それと、市庁舎を移動させる話が以前にありました。これは、現実性があるのかどうかは知りませんが、やはり、庁舎はあの場所に。あの裏に空き地がありますが、観光の場所にするために、庁舎を後ろに下げて、前に駐車場を取る。そうすると、非常に観光の方が廻りやすいのではないかと。今の市営グラウンドの所よりは回遊ルートとしては良いのではないかというふうに思っております。

座長 観光ということを考えると具体的な提案だと思います。他に何かご意見があれば。

市長 いわゆる施設に関しては、観光客の方がどういった行動をとられるのか等を良く考えて、現有資源に工夫とお金をかけて掘り起こし、観光振興に使えるばよいと考えます。

座長 他に何かご意見はありますか。

参加者 この取り組みの主な文章を読ませていただいて、基本的な考えではあるけれども、パッと頭の中に浮かぶのはベルタウンの問題なのです。特にこの2番になります。人を呼ぶ個店の強化を図る。ということです。個店というのは、個人の商店さんの商売のことを指していると思うのですが、この皆さんのこういった会議、あるいは、こういう取り組みの中で、現場も商店街の皆様方がどのような思いでいらっしゃるのか。その現状の商店街で皆様の組織的な上部にある商工会議所、この2つが、現時点において、どのようなお考えを基本的にお持ちであるのか。ちょっとお聞かせ頂きたいと思います。

商工会議所 商店街の活性化については、市の商工観光課とも連携を取りながら、進めているところですが、個店という部分でございますけれども、私は、全体的なことを考えますと、商店街の活性化というところでは、即効性のある効果策はございません。今後、いろいろな対策を市とも連携を取りながら進めていきたいと思っています。観光振興という視点からでは、今、伊勢神宮には 600 万人もの観光客が来ていると言われております。その、例えば一割でもこの松阪市に引き止めれば、観光振興につながると考えております。仕事柄、全国の商工会議所の会合に出席することがありますが、まず名刺交換をいたしますと、松阪は全国区の「松阪牛」があって良いですねと言われてます。皆さんは「まつざかぎゅう」といわれる方が多いので、「まつさかうし」と言い返すのです。けれども、必ずしも松阪市に関心があるわけではないと思います。経済界の集まりですので、松阪で知名度があるのは、「松阪牛」、「三井財閥」です。私としては、本居さん、氏郷さん、より以上に三井にも力を入れていただければ、観光振興の目玉になるのではないかと思います。

参加者 今のご意見に申し伝えたいことがあるのですが、この改革というのはハード、ソフトの両面があります。やっていこうとすると、相当資金が要ると思います。それと、公費で 100% やれというのは、無理な話です。やはり、ここには、民間の力というのを相当入れないと、この計画はおそらくできないと思います。今、世間では、PFI といわれて民間資金をもっと入れよう。ということをたびたびやらないと、公費、公費というだけでは、やれるものではない。やはり、PFI というのは主導権をもっていただけるのは、やはり、商工会議所だと思います。そこで即効性がないと言われたら、このまちはどうなるの。と私は受け止めています。蒲生氏郷とか、歴史上の人物のことをおっしゃるのも結構だけでも、現実の中で一番問題になるのは資金なのです。どれだけの資金をどこから集めてきて、この事業をやっていくのか。ということを決めないと予算ごとになると思います。だから、もっと、心を落ち着けて、真剣に考えないと、この計画は、私は難しいと思います。机上の空論をつくることは出来ますが、現実に形をつくっていくということは非常に力が必要だと思います。私はサラリーマンをしていましたから、商売のことや難しいことはわかりませんが、こういうことこそ、やっぱり、知っていたほうがいい。業界の団体や商工会議所がもっと真剣にやらないと、これは成就しません。私はそう思いましたので、ちょっと話し足りませんが申し訳ありません。

座長 取り組み について、これに関しては 1 回目、2 回目であまり議論が出来なかったもので、もし、ここで何かのご意見がございましたら、商店街のお話もありましたのでどうぞ。

参加者 商店街のことなのですが、今、商店街の中の中京銀行の付近に、まちの中の商

店街の中に空き地があるのですが、その土地に石ころがいっぱい転がっていたり、赤土のまま荒地のままだったり、何も使われていない状態、そういう街中にある土地に多少、土を入れるとかベンチを置くとか、街中を歩いていただく方にとって、ちょっとお休み処として使っていただけるような、見栄えのいい土地にさせていただくことによって、街中の景観がきれいになったり、観光の方にご利用いただけたり、また、土地の経営者の方も、そんなに大きなベンチを置くくらいならば、自分で再開発をしようとするかもしれません。そういう利点もあると思います。平地の整備にベンチを置いたり、緑化をすることで、多少、地域やまちの公園化や観光客向けの施設にできないかなと思います。例えば、空き店舗がたくさんあるのですけれども、それを100%店舗として再復帰させるのも、なかなか難しいのかなと思いますので、その中の何割かは店舗として復帰させて、残りの空き店舗に関しては、例えば、各町の子供神輿などを、今はバラして倉庫の中に片付けていますが、これをそのまま組み立てた状態でギャラリーとして見てもらえるようにして、何か目で見て楽しめるようにして、空き店舗を変えていくようにすれば、地域の人たちの交流場所にもなると思います。最近、集まる場所というのが、少なくなっており、公民館としても利用できるのではないかと思います。そういう、地域のコミュニティの活性化にもつながると思いますし、まちを歩く観光の方にも楽しんでもらえるようになると思います。是非、空き店舗をそのまま活用する方法もご検討いただけたらと思います。

稲垣部長 高齢化する中で、空き家が多くなったりとか、それが壊されて空き地が増えたりしていきます。先般、2回目の意見聴取会で、三重大学の演習課題発表でもありましたように、そういうところを緑地等にすることで癒されるようになるという提案も頂いています。私共としましては、空き家、空き地が増えることが起こりえますので、今後、そのようなことを考えていかなければと思っております。

村田部長 空き店舗対策ということで、空き地を公園化するという提案は有効であると思います。また、空き店舗を商店街の一つのコミュニティとして活用するというご提案も参考にしたいと思います。ありがとうございます。

参加者 感想になるかもわかりませんが、私、この3回の意見聴取会に参加させていただいて、意見聴取会と言いながら自分の視野の狭さを感じています。ただ、全体的にいうと集客の話が多いなと思います。例えば、8ページにあるように、地域ぐるみでどうするのかという時に、取り組みの2番のところですが、私はそれも大事だと思うのですが、ここに住んでいる年寄りも若い者も、観光客が来た時にちょっと道案内してあげるとか、そういうことができる程度の教育というのはおこがましいですが、そういう知識的なものですね。例えば、この

間、電車に乗っていたら、四日市からもう何年も通っているという方と話をしましたけれども、そういう特定の方もいらっしゃるんですけど、我々自身がこのまちに住んでいて、あっ！氏郷の話が大事やと言われても、その前に氏郷について、どこまで知っているのかといろんなことを考える。そうすると、どうしてもハード面が強いなというのは、ずっと聞いておりまして、ここに住んでいる我々も子供たちも、あっ松阪の歴史ってこんなやなあと、もっと肌で感じるような施策はないのか。それか、私が知らないだけなのか。ということですね。つくづく感じるわけですね。先ほどの7億や10億ものお金を私は使う必要はないと思っております。例えば、土地を買うなんていうのは違うと思います。あと、もう一つだけ、取り組みの5番の統一サインについて、私は反対なのです。何故かという、今日の12時から国宝の町を歩くというのをやっています、私もいくつか歩きましたけれども、あのサインというのは歴史があるからサインなのです。私も、その地方につきまして、テレビドラマのついでにサインがあるのです。だけど、あれが終わったら、風化しているだけなのです。国宝のサインというのはそれなりに古くても意味があると思います。仮に、氏郷の大河ドラマを見て、すごいなあとと思っても、数年経ったら、あれはただ風化しているだけです。以上です。

市長 今、本当に貴重な意見を頂いたと思っております。まず、一つ目の地域の方々が歴史や文化などの観光案内ができるような話に関しては、かなり前から取り組みがあったと思うのですが、商店街の方々が自分たち自身が案内人になれるようなシステムがある中で、今後、誰もが案内できるような、松阪の市民総案内人という意見は本当に面白いと思っております、そうすることで逆に観光客だけをターゲットということだけでなく、市民が自らの歴史や文化を学び感じられるという部分も含めて、そういう機会をつくっていく中で、単に、何か物をつくって売るとかいうだけではなくて、市民の方々に松阪の歴史や文化を理解して、もてなしの心を当たり前のようにできるようなまちづくりをしていきたいと思いました。あと、統一サインですけれども、こちらもおっしゃる通り、特に奇抜なものをするというよりは、松阪木綿のように、もともと松阪の伝統に根付いたものを店の表に掲げることによって、外から見ると松阪木綿がばぁっと一体になって感じられるようなものをイメージしております。

座長 ここで話題になった商店街の取り組みについて話を整理したいと思います。その前にアドバイザーから何か一言ありますか。

中谷先生 個店の強化を図るということについては、商店街の方々も努力されておりますが、及ばないところが現実にあると思います。やはり個店の強化を図っていくというより、個店の経営者、また、個店の後を継いでいくその後継者に労力を払っていくという施策も考えていかないといけないと思う。先になります

が、中心市街地の中に生活者のための商店がないまちになってしまいかねないということです。

参加者 都市計画決定を外して巨額の公的資金の投資を白紙にするということには、反対するものではありません。都市計画決定を外して民間活力による開発を進めるとしても、経済が低迷している状況で民間企業や個人商店が出店してこなかった場所に果たして手を挙げてこられるでしょうか。それがすごく疑問です。では、どんなアイデアがあなたにあるのかという時に、例えば、ずっと前にあそこに三交百貨店が栄えた時期がありました。そして閉店していきました。松阪駅前なんかは、三交グループの拠点的な場所であり、例えば、三交百貨店の系列で名古屋や東京でがんばっている東急ハンズなんかを誘致するといったようなことは出来ないものでしょうか。駅前に企業が来てもらえるように行政として努力をするといった施策が全然出てこなかったです。そのことを申し上げたい。もう一つは、少子高齢化社会によって、国の方針も郊外型からまちなか居住へというまちづくりが求められている中で、市長さんから提示していただいた、都市計画決定を外すというのは、反対の方向に向いているのではないかと思いました。市民のアイデアと並行して協議されていくのは良いと思いますが、もっと誘致を行政で考えてもらえないでしょうか。

市長 もちろん、松阪市の土地でありながら、企業を誘致したりとかということに関しても皆さんとも話をしていく中で、いろんなご要望もございます。ただ、当然、ご理解いただいていると思っておりますけど、当然、7億、10億という、それに加えて、建物を壊したり、または、つくったりしていると10億、20億というのは当たり前にかかってくる。この中で誘致ということ考えた時に、本当にある意味、人件費、そして、例えば、他の地域に対して様々な誘致をかけて、例えば、東急ハンズがあったらいいとか、ブランド服の店があればいいなという要望に応えることは、非常にお金もかかる中で、私自身が考えているのは、非常に申し訳ないですけれども、松阪市の土地が無い中で、誘致交渉は当然できませんので、誘致に来るか来ないかわからない段階で、ある意味、どこを誘致するかという目的がある中で、必ずどこかが土地を分けてくれるだろうという目途が無い中で、松阪市に東急ハンズが来るかというそれは難しいと思います。松阪市がリスクを背負う中で、何十億という投資をして誘致をするよりは、松阪市の何か他の部分に使うほうがよいと思っています。いわゆる都市部の発展ということで、東急ハンズやテーマパークがあればよい、本当にそのとおりだと私も思うのですが、やはり、松阪市の財政規模や、歴史や文化の豊かな地域、人的資源、いろんなものを活かしていく中で、コンパクトシティという考えは素晴らしいものだと思います。ただ、松阪市の場合、駅前だけが中心ではないと思っています。一方では、商店街の振興、福祉、医療、その

他の部分に使うことが、本当に松阪市が日本一優しいまちでありたいなと思えるような使い方をすることがよいのではないかと考えております。今のこの財政状況が厳しい時期に大規模商業施設の誘致などのリスクを負うべきではないと考えております。

座長 時間もおしてきていますので、もうひと方最後にお伺いしたいと思います。

参加者 観光関係の話が出ておりましたけれども、市当局や観光協会では観光客を対象として、観光客が見ている順番なんかは分かっているのですか。観光地の行政というのは、ものすごく有効投資してもお客は通りすぎるだけです。そうかと思うと、何にも一銭も使わなくてもお客が来る、そういう特徴をもっているのが観光行政である。市としても、どこから一番観光客が来ていますか。松阪市民が1番、近隣市町村が2番、3番目が三重県、それから、100kmから200kmぐらいの大都市圏、大阪、京都、名古屋になりますね。その辺がこれに続きます。もちろん東京も。結局、それは何が言いたいかという、この前、市が肉の宣伝を九州と北海道にしましたね。あれは、いったい何の宣伝なのか。あんな無駄な宣伝はやめてもらいたいと思う。市長がいつも言われていますね、一銭のお金も大事だ。観光施設を目的に松阪に来るのは、ほんの100人の内、1人か2人。やはりそういうことも十分考えて、市長が言っていました、誇りある田舎の観光地というものをまず頭の中に置いて進めて欲しいと思います。観光地というものは、買い物をしてもらわないと困るのです。立派な建物を建てておいて、買い物をしてもらえないとそんなのは意味が無い。ということで一つ、松阪の振興を考えてもらわないといけない。それと、もう一点、駅前の整備を行なうことは結構なことなのですが、拠点がありません。要するに、松阪市民にとっても、どこに店があるのかとか、何も分かりませんか、正直な話。そういう面でも取り組む必要があると思います。

市長 おっしゃる通りで、観光案内所の場所については、ここに住んでおられる松阪市民でも、駅を降りて見にくいとかですね、駅の改札口から歩いてきた時に観光案内所の看板というのが、実は駅を降りた時に右側にあるのですが、誰も知らない。やっぱり、駅に降りた時に観光案内がまず目につくところに間違いなく必要になってくると思いますので、それは今後、考えていきます。

参加者 まず、拠点づくりからPRしないと意味がない。

参加者 先ほど、駅西の話をさせてもらいました。取り組み ~ までありますよね。個人的には私は歴史が大好きなので取り組み を重点的にやっていただきたいと思うのですが。ここで市長に聞きたいのですが、お金は借ります、誰がやるのか。この中で優先順位というのは、市長はどんな自分の構想として考えているのか聞かせてもらいたい。

市長 基本的に、次年度から取り組みに入らせていただくという部分も出てくると思

っております。その中で、優先順位というよりは、この大河ドラマ化、松阪城跡の物語など、このあたりに関しては、目的を明確にする中で民間との協同という部分で真剣に考えていかなければならないと思います。それをやるお金は、かからないというよりは、お金をかけないで周りと共にやっけていかなないと進まないことであろうと思っています。是非一応、次年度から取り掛かっていく話でありまして、すみません無茶な事を言っているつもりは一切ございません。

参加者 ゴールはいつぐらいを目標としているのか。そこも含めて優先順位をつけないといけないと思います。

市長 ゴールというの無いものが非常に多くて、いろいろな事業に取り組むのですが、終着点は当然ありません、まちづくりスタートラインの第一歩と考えております。

参加者 誰がという部分とお金というものが、かなりリンクされますから、そのあたりをチェックしていかなければ構想だけで終わってしまうおそれがあると危惧します。

市長 この取り組みに関しては、ある程度お金の部分も当然考慮すべき中で、この取り組み自体を考えさせて頂いております。構想を見ていただいたら、だいたいはご理解いただけと思うのですが、そのノートに書かせて頂いている部分に関しては、それほどお金が、もちろん最後の4番目に関しては非常にお金がかかってくる場所ですけれども、次年度以降、取り組みを進めていく覚悟でおりますし、あとに関してもお金がどうこうというより、まずやっけていくと。財源どうこうというのは優先順位が明確でないから、財源の話になっていきますけれども、優先順位をやるという目的でやっておりますので、あまりその辺は問題になってこないかと。

参加者 蒲生氏郷に関してお金がかからないと言われたのですが、お金がかからない代わりに、けっこうかなり前からやっけてきて、そんなに簡単じゃないということをおっしゃっているのです。やはりそういうような意見を研究した上で具体化していただかないと、お金がかからないから簡単だという問題ではないと思う。

市長 簡単だとは全く思っておりません。みなさんと取り組みを一緒にやっけていく中でということ。あとはスタートラインということ。

座長 はい、ありがとうございます。時間もだいぶ押してきておりますので、ここで最後にアドバイザーから一言お願いします。

岩田先生 イタリアのフィレンツェの北にポローニャという都市があっけて、エミリア・ロマーニャ州の州都です。その真ん中に見えるのが中心市街地で歴史的市街地、高速道路は上の方に通っています。電車は中心市街地のこの辺を国鉄が通っています。これが駅で、駅前は何もありません。ここに大きい中心の通りがありまして、ここが広場になっています。(イタリア、ポローニャの中心市街地の事

例をパワーポイントを使って説明されました。)

ということで私が言いたいのは、松阪市の中心市街地の構想には、ゾーニングという考えが出ていますが、これは結局、何も戦略が示されていないということです。松阪の都市構造、中心市街地は松阪市全体を考えた中心市街地という計画になっていて、中心市街地で人が留まる所がない。駅から歩いていて、どこか留まる所がなくて、桶がぬけたような道路交点になっている。それでももう少し戦略を考えた時に、最初、市役所のところにパーキングを作ったらどうかという話もありましたけれども、そういうことも考えて駅前の再開発をどう位置づけるのかということをもっと考えなければいけない。名古屋の例を見ますように、駅前から栄町側へ出て行きますね。そういうこともよく配慮して、戦略的にもっとプランニングをすべきです。もう一点言いたいことは、また今回も意見聴取会といって、住民参加らしきことをしていますが、本当の住民参加をやるのであればどういったスタイルが良いのか。色々パターンがありますが、どういった住民参加でやっていくのかということを決めて、そういった中でまちづくり、あるいは中心市街地活性化を考えていかないと、今まで土地の話やお金の話が出ていましたけれども、何ら解決しないのではないかと思います。すべて市長さんがやるわけにはいかないわけですね。言いたいのは、この二点です。

中谷先生 今日中心市街地活性化という話がけっこう出ていますので、なぜ起こってきたのだろうということを思い返しながらか皆さんの話を聞かせていただきました。なぜ、中心市街地活性化をしないといけないかというと、商店街の疲弊というものもあります。ただし、日本経済、人口減に向かって高度経済成長時代も含めて考えて、どんどん外へ向かってまちが膨らんでいった。そして、まちなかが空洞化していった。人口が減ってくる、経済が縮小する、税金が減ってくる、今の税収のままで地方、あるいはまちが成り立つのか。これは、とても成り立たないです。では、どうすればよいのか。もう一度、街中を見てみると、街中には過去に持っている財産がたくさんあるではないか。もう一度コンパクトな小さなまちを作ろうではないか。そこで無駄をなくそうではないかというのが、大きな流れからするとここなのですね。要はコンパクトシティ = 中心市街地ではなく、松阪全体をコンパクトにしていきましょう、その核が中心市街地なのです。という考え方だと思います。次はその方法は何かということ、無駄をなくしていこうということです。外へ広がって、広範囲に動かなくてはならないような所が無駄。新しく郊外の外に作っていくと無駄が出てくる。既存のものは有効活用しましょうといったいろんな考え方。それが一つの中心市街地活性化という手法になってきている。

松阪の駅周辺だけではなく、エリア、エリアでまとまったエリアがあるという

のが一つの考え方だと私は思っています。無駄のないまち、松阪を作っていこうという一つの核が中心市街地活性化だと私は思っています。皆様から苦情をいただくかもしれませんが、住民アンケートから見ると約 7 割が中心市街地活性化が必要だと答えています。ただし、なぜ必要なのかというのは、皆さん曖昧な答えだと思います。無駄のない社会をつくっていく、そういった中心市街地が核になるという考え方が必要かなと思いました。

それと、もう一つですね。「観光、観光」と言われて、よく商業者の人が黙っているなと思いました。要は、松阪市の中心市街地の中に観光客対象とする商売をやっている方はほとんどいない。現在のままでは観光客を誘致しても決して商売にならないと思います。

もう一つ、おかげ横丁の近くに私の従兄弟が住んでいます。私も商売柄、全国、沖縄以外は全部行きました。観光地も廻っていますが、生活観という点から言いますと観光地というのは生活がしにくいのです。週末になると人がたくさん来る、けどお店は地元の自分が生活するものを買って揃えるところがない。それでいいのかという議論がある。

それともう一つ、生活者の視点で中心市街地の活性化という議論がもう少しあっても良かったのではないかなと思います。生活するための活性化、商業、いろんなケースという話もう少しあってもよかったのかなと感じました。感想も含めて以上です。

座長 ありがとうございます。これまでの意見聴取会でのご意見とアンケート結果などからつくる整備イメージの方向に概ね賛成と思われる方、また反対と思われる方、 ×でお聞きしたいと思います。

賛成多数、×反対なし

座長 私もアドバイザーなのでいくつか意見を言わしていただきたいと思います。私も生活者の視点というのは大切だと思います。これはもう少し広い視点から、松阪市をどういうふうに変えていくのか、市長が言われた、魅力ある田舎町という市全体のイメージを具体化させた上で、中心市街地というのはどんな役割を持つのかということも含めて、市民のための活性化ということを考えていく必要があるのではないかと。そうすると、その中で交通の問題も出てくるでしょうし、そういったことが必要なのではないかと。これから市総合計画を作成されて、その他いろいろな計画が決まっていくのではないかと。思うのですが、市民のための中心市街地の活性化という視点をもう少し生活の面から考えたらよいのではないのでしょうか。もう一つ、声なき声をどういうふうに聞いていくのかという仕組みですね。今日集まっていた方は平均年齢でいうと、私は 50 歳ですが、それよりも上になってしまうと思いますが、20 代、10 代、10 代以下、または、これから生まれてくる世代、これから生まれてくる

世代については声を聞くのは難しいのですが、そういった方々の声を聞くということをお大事にしないといけないと思います。本日は最後に、取り組みが4つありますけれども、やはり連携しあっていると思います。例えば、歴史と文化を重んじるような取り組み、それに対して商店街の方々、取り組み ですけども、これがどういうふうに連携しあっていくのか。または商店街の方々の連携、助け合えば、相反することだとおっしゃいましたけれども、それももちろん協力関係であるということが考えられますので、誰がやるかということも含めて、もっと連携というか、考えていかれる必要があるかと思います。例えば、松阪というのは非常に市民感情として意識高く活動されている方が多いと思いますので、そういった方々の知恵なり行動力をお借りしながら、中心市街地の活性化をしていくということが期待されます。私の方からは以上です。

市長

閉会の挨拶

本日は本当に長時間にわたりまして、様々なご意見をいただきましたことをまずは感謝申し上げます。そして、3回にわたって、本当に多くの方々にご参加いただきました。本日も雨にもかかわらず、本当に多くの方々に来ていただきましてご議論、ご意見いただきました。本当にまちづくりのあり方に関しては、正しい答えはないとは思っております。その中で、市民の皆様からご意見をいただき、この確定していない段階で本当に多くの方々から、ご意見が出たことを反映できることに関しては、うれしく思っておりますし、議論いただいたご意見をもとに、必ず次年度の予算に反映させていただくと共に、次年度にまちづくりのシンポジウムを開催したいと考えております。今日の案は、これはあくまで案でございますので、先ほど、ご指摘を受けた生活者、居住環境の視点を取り入れることを忘れずに持ち帰って整理させていただき、改めて「まちなか再生プラン」とさせていただきたいと思います。先ほど女性の方からもご意見をいただきましたが、駅前に様々な施設を誘致して欲しいというご意見や、他にも新しい商売ができる施設になればいいな。という思いもございます。夢や様々な取り組みに関して、私たちも一生懸命させていただくのですが、やはり、国、県、市とも財政状況が厳しく、一つの優先順位をつけないといけないと思っております。その街中のことを中心に今回議論をしましたけれども、合併して、飯南、飯高、嬉野、三雲、地域における様々な限界集落といわれる地域もあります。こういう中で、街全体のことを考えるということと共に、福祉、医療、環境問題についてバランスよく考えていこうという考えで、今後、意見聴取会を通じて、市民の皆様と一緒にまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

少し話がずれますけれども、ある番組を見ていて、子供が6人、7人集まって、予算が50兆円あります。この50兆円を、福祉、環境、医療、産業、公共施設

などにどう使うかという話し合いをしてもらおうと、子供さんの間でも大喧嘩となりました。私は環境の方にもっとお金が欲しいとか、環境の方ではなくて公共施設の方がいいよとか、いろいろな議論がある中で、子供たちが大喧嘩をして、最後に意見が一つにまとまるという話だったのですが、その子供たちの感想が、大人たちもこんな難しいことをやっていて大変なのだろうなと子供さんがコメントをしていました。話が逸れましたけれども、松阪の皆様から預かった限られた税金の中で、今後まちづくりをしていく中で、まちづくりのプランニングというのが大事であると思っております。先ほどおっしゃっていただいたように、街中に対してどのように人に集まってきてもらうか。また、住環境の中で、街中でいろんなことを合わせて松阪市、松阪駅前づくりというものをやっていくことが必要だと思っております。先ほど質問にもありましたように、どの主体ががんばってやっていくのか。行政もどこかにやってもらおうということだけではなくて、やはり、これを誘導するような、市の職員も汗を流してやっていくぐらいに、お互いに汗をかきながら、市民の皆様方も行政がやるべきことだというのではなくて、本当にいろんなご意見を出してもらって、一緒になってまちづくりを考えていきたい。このように思っております。3回のこういう意見聴取会を開催して、今後、このような機会を随時設けさせていただく中で、皆さんと共につくっていくまちづくりを考えていきたいと思っております。本当に本日はありがとうございました。

6. 閉 会

司会者 本日は長時間にも関わらず皆さんに集っていただき、大変ありがとうございました。これをもちまして意見聴取会を終了いたします。

以上